

9種の悪性腫瘍臨床試験について

当センターでは、これまで8年間、多くの患者さんのご協力を戴き、臨床試験として個別化ペプチドワクチン投与を行い、3000例を超える方々のご参加がございました。そこで癌腫別の、投与させてもらった個別ペプチドと臨床効果（全生存期間）との相関関係を検討しました。

その結果、がん腫毎に臨床効果（全生存期間）への貢献度合いの高いペプチドが存在することが判明しました。それらの貢献ペプチド群はがん腫ごとに若干異なることも判明してきました。そのために、個別化ペプチドワクチンのより高い臨床効果を目指して、これまでの「抗体陽性の高い順に最大4種類選ぶテーラーメイドペプチドワクチン臨床試験」を、「抗体陽性のペプチドのうち臨床効果と正相関をしめすペプチドを優先して最大4種類選ぶテーラーメイドペプチドワクチン臨床試験」に変更いたしました。

なお、その対象となる癌腫は、症例数の多い癌腫（肺がん、大腸がん、胃がん、乳がん、すい臓がん、前立腺がん、肝臓がん、尿路上皮がん、卵巣がん）の9種類です。それ以外のがん腫では症例数の集積を待つて上記と同様の解析予定ですので、従来と同様の臨床試験となります。本臨床試験は、久留米大学での倫理審査委員会の承認を受けております。